

平成 21 年度 学校自己評価システムシート (県立所沢高等学校)

目指す学校像	多様な生徒一人一人に相応し、社会的自立を促す親身あふれる温かい教育
--------	-----------------------------------

重点目標	1 授業を大切にし、基礎学力を身につけ、学習意欲の向上に努める 2 家庭や地域等と連携し、教育活動の一層の充実を図る 3 学校行事等への参加を通し、学校生活を充実させ、自己実現を図る
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8 割以上)
	B	概ね達成 (6 割以上)
	C	変化の兆し (4 割以上)
	D	不十分 (4 割未満)

学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3 名
	生徒	1 名
	事務局 (教職員)	3 名

重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度
1	多様な学習歴の生徒が多いため、個に応じた指導を行っているが、さらに指導の充実を図ることが課題である。 学習の機会に恵まれていなかった生徒が多いため、わかりやすい授業づくりを進め、理解度に応じた補講等の指導の幅を広げていくことが課題である。	授業改善及び基礎学力の向上 【個に応じた指導の充実】	生徒理解についての事例研究等を行い、より実践的な指導力を教員が身につける。教員間で生徒情報交換を積極的に行い、授業内容の精選を図り、教材の開発を進める。学習支援員等を活用し、手立てが必要な生徒を支援する。総合的な学習の時間を活用し、生徒の興味関心を伸ばし、様々な学習意欲を高める。	事例研究や生徒情報交換等を年3回以上行う。 新入生は年度当初を加え、年4回以上の面談を行う。 定期考査で概ね6割の理解と提出物の確認を行う。 7割の出席率を目指す。	様々な場面において情報交換を行い、生徒理解を深めた。また近隣特別支援学校へ授業公開を行い、本校の教育課題の理解を深め、教員の指導力を向上する契機とした。 各学年3回以上の面談を行い、特に1学年では保護者面談を実施し、家庭との連携を深めた。 学習支援員を活用し、TTや補講等を行い、学習意欲を向上させ、各学期の欠点者が3割減少した。 出席率は78%と向上した。	B
2	中学校訪問やHP等により教育活動を発信しているが、「本校の定時制教育」に対する深い理解を浸透させ、中途退学の防止等につなげることが課題である。 学校評価懇話会等と連携し、情報交換を行っているが、さらに情報交換の場を拡大していくことが課題である。	開かれた学校づくり 【工夫ある学校情報の発信】	志願者の多い中学校等を重点的に訪問し、教育活動を発信する。 求める生徒像を明確にし、志願者に対して、事前に十分な学校説明を行う。 文化祭PTAコーナーや生徒による説明コーナー等様々な学校発信を行う。 学校評議員及び学校評価懇話会と連携する。	関心を持ってもらうようなHPの工夫をするとともに、HPを学期に1回以上更新し、さらに情報誌を学期に2回以上発行する。 中学校訪問等を年3回以上実施する。 志願者の事前説明会参加率100%を目指す。 懇話会委員対象にアンケートを年1回以上行う。	HPを3回更新、広報紙を12号発行し、情報発信した。志願者の多い中学校等を年3回訪問し、本校の教育活動について理解が深まった。 文化祭のPTAコーナーを設け、地域や中学生に情報を発信した。また、志願者の約7割が事前説明会に参加した。懇話会委員対象のアンケートを実施し、意見交換をした。	A
3	生徒会活動を活性化させ、学校生活の充実を目指しているが、生徒会活動や各種行事への参加意欲の向上が課題である。 基礎的生活態度を身に付け、自律心を養う指導を行っているが、基本的な生活態度や自律心の確かな定着が課題である。 発達段階に応じ、木目細やかな指導を通して、進路意識の向上を図っているが、さらに進路意識の向上や自己実現に向けた支援体制の充実が課題である。	生徒の自己実現に向けた指導の充実 【充実した自己実現の支援】	行事への参加意欲を高めるために、生徒への動機づけや家庭の協力を得る等工夫ある取組を行う。 関係機関との連携し、全定で共通理解を深め、生活指導上の課題に取り組む。 関係機関や分掌と連携し、4年間を通じた計画的・組織的な進路指導体制づくりを行う。 進路実現に向けた望ましい職業観や勤労観の育成を図るため、就職支援アドバイザー等を活用する。	生徒会を活性化し、行事参加率7割を目指す。 毎日1回以上、組織的に校内外の巡回指導を行う。 個別面談指導を年4回以上実施し、進路希望実現の6割達成を目指す。 進路に関する行事(進路講演会等)を年に3回以上実施し、生徒の進路意識の醸成を目指す。	生徒会に関するガイダンスを行い、参加意欲の向上を図った。また体育祭を復活する等行事の精選を行い、行事参加率は85%に向上した。 組織的な校外巡回により、校内外喫煙者が激減した。 進路実現の6割達成を目指し、厳しい状況の中、粘り強い指導を行っている。 進路適性調査・卒業生を囲む会・就職ガイダンス・学年別進路啓発セミナー等の企画を実施し、就職支援アドバイザーを活用し、生徒の進路意識を醸成した。	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成22年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習歴の生徒への対応として、個々に応じて、より一層工夫した指導をしていただきたい。 学習支援員の活用、教員の共通理解の共有等により、基礎基本の定着に向けた指導を継続していただきたい。 保護者参観といった保護者が学校を知る機会をさらに拡大していただきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> HPの内容等はより改善されてきたが、さらに工夫をお願いしたい。 学校評価懇話会等、学校内外の交流が多く行われ、意見を取り入りやすい環境づくりがされている。 学校に関心を持っている保護者が増え、保護者同士の交流を求めている方もいるので、保護者が参加しやすい機会を設けていただきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 様々な行事において、生徒の委員会や係が活動するような機会を多く設けていただきたい。 先生方が生徒とのコミュニケーションを積極的に取ろうと御努力されている。 生徒及び先生方が一緒になり行事を作りあげている様子が伝わってくる。 不況等の厳しい状況下でも、引き続き指導をしていただきたい。 	